



凡 例

- 一、 本書は、須佐益田家文書、須佐町教育委員会蔵の「月番日記」を資料として刊行するものです
- 一、 漢字、カナ、ひらがなは原文通りとし、古字、俗字、異体字は特別な場合除き常用漢字に改め、適宜読点（、）・並列点（・）をうった。「比・ころ」・「扣・ひかえ」・「躰・てい、たい」・「井・ならびに」など
- 一、 平出は無視、また衍字は省いた。
- 一、 虫食・破損・解読不能の箇所は一字分を示し字数の推定不能は…とした。
- 一、 「之」は「の」、但し「これ」と読む場合はそのままとした。
- 一、 「二而」は「二て」の如く「而已のみ」、「別而べつして」等はそのまま。
- 一、 「己来」「以来」は混用されているが原文通りとした。
- 一、 原文に後で加筆されているものは、∧ ∨ 内に入れた。
- 一、 日記は全文を収録した。
- 一、 人名表は本書より集約した。
- 一、 原文中脱字と思われるもの、また日付のみにて年号の無いものは（ ）内にいれた。
- 一、 「歎願書写」「長防土民泣血歎願書」等は写違い、脱落もあり、回天実記『防長回天史』外を参考として訂正した。

目 次

はじめに	………	一
凡 例	………	二
目 次	………	三
日 記	………	五
余 滴	………	二九五
参考文献	………	三〇二
日付別目次	………	付一
人 名 表	………	付一三
年 表	………	付一七
益田家歴史資料目録 抜粋	………	付一八
益田家中人数表（慶応三卯八月現在）	………	付一九
育英館舎略図	………	付二〇
解 読 須佐町郷土史研究会 全右（責任者）	………	城一 定昭 人

# 月番日記

須佐町教育委員会蔵  
益田家文書

## 安政二卯八月三日

去春旦那様不尋常、御出役被為蒙仰候処、  
於御旅中も段々御首尾能、先般御機嫌能御  
歸座被為在候二付報責尚益御開運の御祈  
念、於松崎社来祇六日より七日え自力を以  
相勤、右二付上々仁様方御代参候神納物等被仰  
候、此段為心得内意相達候事

付り、祇園社御順幸をも相調度申出被差免  
テ、本文の趣え引添豊年祭且病難除とシ

右の通り御沙汰相成候二付早速及廻達候事  
宅野九郎兵衛・増野弥一郎

\*旦那様〓親施をいう、以下おなじ  
\*出役〓（でやく）他所に出張して勤める役・しゅつ  
やく。安政元年三月相模国御備場奉行と  
して出役（三浦市上宮田）  
\*報責〓報祭。祈願成就のお礼まいり

## 安政二卯八月三日

先般御出役御供二付、明荷借用仕居候銘々  
名札を付、当月廿日を限り御土居可被差出  
候事  
斗手役の者え受方被仰付候事

付り、皮籠其外洗<sup>什器、戒器カ</sup>斗道具類自分持合せの分  
御借揚立二差出未取下ケ不相成八、物品

申出候事  
夫々付立二追々御詮儀の上、下ケ渡可被仰  
付候事

右の通り御沙汰相成候二付早速及廻達候事

宅野九郎兵衛・増野弥一郎

\*明荷（あけに）〓旅行用の一種のつづら

## 安政二卯八月四日

来候事  
七日上丁二付育英館於日新堂祭儀被仰

当役中  
助御教中  
年中行司  
課業生中

右正七ツ時揃二て日新堂出勤の事

諸士中右心懸次第拜被仰付候間、朝五ツ  
時より九ツ時迄の間日新堂罷出、学頭え

付り、祭儀拜見被仕度銘々の儀は、正六ツ  
聞合の上拜可被相調候事  
服職の改の事  
出勤の銘々孰も麻上下着用の事

右の通り被仰付候御沙汰相成候二付早速及  
廻達候事  
宅野九郎兵衛・増野弥一郎

\*上丁（しょうてい）〓二月・八月上旬の丁（ひのと）の日  
孔子を祀る典礼、釈奠（せきてん）という  
\*育英館〓郷校にして付属として日新堂がある  
\*服職（ふくえ）〓忌服つて最上とする  
\*上下（すく）〓麻をもつて最上とする

## 安政二卯九月四日

御用の儀有之候二付大谷岩尾罷出候処、  
引続当月御用番二付御式台兩人詰二被仰  
付候事

付り、勤合番替順月出勤相済候迄は本番は  
一人二て相済候事

大谷岩尾・内藤又之進

安政二卯九月十二日

砲術は古に於て、別々の先務、壯年の者被  
励行古に於て、別々の先務、壯年の者被  
中、有流、元、夫、己、心、相、儀、候、御、來、御、事、候、中、一、旨、有、御、趣、意、の、相  
儀、御、兼、流、被、仰、付、今、深、己、心、相、儀、候、御、來、御、事、候、中、一、旨、有、御、趣、意、の、相  
相、守、弥、以、無、怠、稽、古、可、有、之、候、事

付り 是迄稽古仕候銘々於育英館日新堂、  
兩流共二誓紙被仰付候 隆安流の儀は松

井平輔面許相濟誓紙差出相濟儀二候へ共、  
郡司武之助殿誓紙懸望座え可被申出候  
稽古見合の儀は是迄の通り無相違候事  
付り 兩流共新二入門の部も当日限迄二申  
出可有之候事  
事 付り 誓紙日限の儀は追而沙汰可被仰付候

卯九月

前書の通り月番呼出にて御沙汰有之(候)

二付早速半間中え及廻達候事

大谷岩尾・内藤又之進

\*郡司武之助 嘉永六年十二月大砲鑄造用  
掛砲兵方教授、維新後陸軍省出仕、明治十  
四年没

安政二卯九月十五日

過嘉永三、年、洪水、二、付、公、儀、御、法、被、受、  
於、内、輪、永、三、年、有、之、候、御、利、法、被、受、  
年、賦、納、延、引、三、朱、利、納、仰、斗、上、納、被、仰、付、候、事、  
り、先、且、納、延、引、三、朱、利、納、仰、斗、上、納、被、仰、付、候、事、

卯九月

前書の通り月番呼出にて御沙汰有之候二付

早速半間中え及廻達候事 大谷岩尾・内藤又之進

\*洪水 嘉永三年六月一日大風雨洪水、禾  
米稼働を損し、人畜死亡多し、阿武郡志  
\*公儀 藩内政用は、大公儀となる  
\*仕法 幕府の意は、大公儀となる  
\*且納(かつのう) 且は割で分割納の意  
『むつみ村史』

安政二卯九月十五日

先般御出役御供二付限御荷借居候銘々、  
名札を御出先御供二付限御荷借居候銘々、  
差出向も有之候様、相聞候限、御出候様、  
廻付可条有之候事、日様を相聞候限、御出候様、  
付り 自身物御用二差出候部も此内沙汰被  
仰付候通り申出可有之候事

卯九月

前書の通り月番呼出にて御沙汰有之候二付

早速半間中え及廻達候事 大谷岩尾・内藤又之進

\*不(ふう)移(うつ)り 連絡不十分

安政二卯十一月十三日

文、学、は、一、日、倫、本、と、務、め、忠、孝、第、一、の、教、二、候、仰  
為、右、旨、一、日、倫、本、と、務、め、忠、孝、第、一、の、教、二、候、仰  
聞、(不)及、す、就、而、育、英、館、日、新、堂、(一)ノ、日、講  
出、積、御、家、來、中、嘉、永、少、無、差、別、一、月、一、日、講  
出、積、御、家、來、中、嘉、永、少、無、差、別、一、月、一、日、講

外余り出勤も無之候、甚以情弱の様被聞召上、不  
相銘事候も強都家務の妨相成候程は、御出儀  
の可之候、余不都合の儀共於之、御  
儀上被付、相方不可合儀事、御  
段心上得内意相違候事

付り 諸新古出勤の銘仕段講は兼てのり被仰出

前二候、近來は間々不心得の部も有之  
哉二相見候、付候已於御方得と儀  
相二様被へ候、其外諸向違有之、候  
付り 当役中を仰始め、諸向違有之、候

朝の内御用支り席被仰付、成様差候事  
被仰の出御用支り席被仰付、成様差候事

卯十一月

前書の通り月番呼出二て御沙汰有之候二付  
早速半間中え及廻達候事 俣野松之進・大谷小源治

安政二卯十二月朔日

一 今日御用の儀申来候二付小原勘右衛門御  
土居罷出候、益田重五郎方より別紙の  
通り授相成候二付及廻達候事

来六日例の通り、只米勘渡并御家来修甫利  
米勘渡、同日七、八日餅米大小豆勘渡被仰付  
候、右日限無間違取、下可有之候事  
小原勘右衛門・増野勝太

\*勘渡(かんと) || 公銀米(給料)を支給すること  
\*修甫(しゅうぼう) || 不二の出費にそなえて蓄える制度

安政二卯十二月三日

一 御用の儀有之候二付増野勝太罷出候、  
当月御用番二付御式台両人詰二被仰付候  
との事

付り 井久米槌出勤本番一勤人相濟候二付仲  
小原勘右衛門・増野勝太

安政三辰正月五日

過ル嘉永四年亥二月、礼式稽古は、古  
月三、宛二、被仰候、相勤候、近來は、古  
却而、何の二式、而、已、依、勤、候、之、  
来拾五、何、下、事、者、稽、古、被、仰、候、  
付り 拾六、歳、已、上、余、の、暇、を、以、の、稽、古、は、勝、手、次、第、二

辰ノ正月 宛候事、是迄の通り二候事

付り 被仰候事、是迄の通り二候事

前書の通り月番呼出二て御沙汰有之候二付  
早速半間中え及廻達候事 本尾直記・大谷岩尾

安政三辰正月九日

御用の儀有之候二付大谷岩尾罷出候、  
家来中、式、八、分、已、上、付、差、出、候、様、有、之、候、  
前等、付、取、縮、ル、一、十、分、已、上、付、差、出、候、様、有、之、候、  
於月番、取、縮、候、事、本尾直記・大谷岩尾

\*取縮(とりぢぢめ) || 取まとめ

安政三辰正月十一日

一 御家来中井地方・町来・浦歳暮御帳前々よ  
趣有之、月廿八日、被仰、月朔日、二被仰、付候事  
付り 正六ツ時より五ツ時迄、着帳被仰候  
付り 夫過候儀は、是迄の相成候事、被仰候

御屋敷候儀は、是迄の相成候事、被仰候  
との事

一 明暮御祝詞の儀は肝要の御勤二候えは、  
不罷出而相濟哉、勿論二候近來は間々、  
等閑の向も有之候己來在屹度心得方可有之  
心得の様相見候己來在屹度心得方可有之  
候事

付り 在須佐の銘々若元日病氣支り等二て

出伺の筈二候処、近來心得違へ向も有之  
哉二相見候 己來右の通り可被相心得候

辰ノ正月

本尾直記・大谷岩尾

前書の間中り月番呼出二て御沙汰有之候二付  
早速半の間中り月番廻達候事

\*歳暮(としくれ)御帳<sup>ニ</sup>年末の御祝詞、挨拶  
\*取分(とりわけ)急度<sup>ニ</sup>たしかに、かならず、ちやんと  
\*屹度(きつと)急度<sup>ニ</sup>たしかに、かならず、ちやんと

安政三辰正月十一日

諸半間・御家來、中実子無之病身二ては養  
子不仕奉等閑二打過候部近來間々有之候様被  
聞召上甚<sup>はなはだ</sup>以如何の事二被思召候<sup>ニ</sup>已來右  
様不心得<sup>はなはだ</sup>打過候部近來間々有之候様被  
候時<sup>はなはだ</sup>為<sup>はなはだ</sup>心<sup>はなはだ</sup>得<sup>はなはだ</sup>内<sup>はなはだ</sup>意<sup>はなはだ</sup>被<sup>はなはだ</sup>仰<sup>はなはだ</sup>付<sup>はなはだ</sup>候<sup>はなはだ</sup>事<sup>はなはだ</sup>

卯ノ十二月

前書の間中り月番呼出二て御沙汰有之候二付  
早速半の間中り月番廻達候事  
本尾直記・大谷岩尾

\*御断<sup>ニ</sup>(おことわり)ことわることではなく願いの意

安政三辰二月八日

来ル九日育英館於日新堂祭儀被仰付候事

一 当役中

一 年行司

一 御目代中

一 学頭  
一 課業生中

一 右正七ツ時揃二て日新堂出勤の事  
諸士中右心懸次第被仰付候間朝五ツ時  
より九ツ時迄の間、日新堂罷出学頭え聞  
合の上拜可被相調候事

付り 祭儀拜見被<sup>仕カ</sup>仰度銘々の儀は正六ツ時  
罷出学頭え可被相達候事

一 服職改の事  
辰ノ二月七日 いつれも麻上下着用の事

前書の間中り月番呼出二て御沙汰有之候二付  
早速半の間中り月番廻達候事

内藤又之進・増野弥市郎

安政三辰三月廿二日

今朝御土居罷出候様申来り候二付波田温  
人罷出候所、益田三郎左衛門方より来月  
御用番二付早速御式台へ相達候事  
候二付早速御式台へ相達候事

月番 波田温人・松原茂一郎

安政三辰三月廿六日

一 仙相院様・寿光院様 爰許被遊御越候事  
此度の儀は、御忍の事二付御道御機嫌伺  
儀不被仰付、翌廿七日於御殿御機嫌伺  
申上候様御触有之候事  
御機嫌克爰許御着駕二付旦那樣・御奥  
様五文字様へ非役半間中より御歡の  
披露状差出候事  
付 此段早速及廻達候事

一 同断<sup>ニ</sup>披露状差出候事  
同断<sup>ニ</sup>披露状差出候事

付り 此段萩詰掛へ書中を以申遣候事

此度は詰掛近日帰国二付略之

一 文案の儀文格有之候二付略之

【13頁】

\*\*\* \*\*  
仙光院 親施祖母、この時五十八歳  
仙相院 親お施母の、この時五十五歳  
御忍字 親お施房の子、この時九歳  
同断字 (親お施うだん) 前十の九歳とありであること、同様

安政三辰四月二日

一旦那樣御事、此迄御役被差替御国御職役  
被為蒙仰、万端御首尾被成御座候二付、  
非役半間中より御歎の披露状差出候二付、  
早速及廻達候事

月番 山崎十郎・松野重内

\*御国職役 萩藩の制度  
萩藩の制度 萩藩の制度 萩藩の制度  
\* 詮儀(詮議) 評議して物事を明らかにする

安政三辰四月十四日

御用の儀御土居罷出候様申来候二付松野  
御内出候御土居、益田三郎左衛門より此度  
十職二付候、此段相達候様二との儀人二付  
御役候間、此段相達候様二との儀人二付  
被仰及廻達候事

月番 山崎十郎・松野重内

安政三辰ノ四月十六日

御用の儀御土居罷出候様申来候二付  
山崎十郎罷出候御土居、益田三郎左衛門より  
山崎十郎罷出候御土居、益田三郎左衛門より  
忍来被遊日仙相候間、御道院様送りの御  
不及候此段早萩候間、御道院様送りの御  
事二付相達候事

月番 山崎十郎・松野重内

安政三辰五月十二日

諸士中嫡の子庶子七頭八歳比より素読、手習致させ  
八歳の子庶子七頭八歳比より素読、手習致させ  
八歳の子庶子七頭八歳比より素読、手習致させ

【14頁】

試の節兼致素読候、  
堂の通出兼素讀候、  
右の兼出兼素讀候、  
近於一通無儀趣有仕候様被学頭授候、  
尤於向無儀趣有仕候様被学頭授候、  
猶又御詮儀無趣有仕候様被学頭授候、  
候条、御詮儀無趣有仕候様被学頭授候、  
内意相達候事

前書の間月番呼出二候御沙汰有之候二付、  
早速半間中へ及廻達候事

\* 詮儀(詮議) 評議して物事を明らかにする

安政三辰ノ六月廿七日

今般、思召の旨有之家系付出し被仰付との  
御事二候条、別紙難型の通相認印封ニシ  
テ七月限り於月番所取揃、益田丹下方  
迄可被差出候事

別紙難型  
家系

先祖已来代々

俗称 実名俗称共改の部は夫々相記候事

実名

養子なら八実は何条何某何男  
母は何条何某女  
妻同断、尤後妻有之部は初妻同様  
二相記候事  
死去年月

一 御当家え忠の次第

一 御感状写

一 常々御奉公の次第

一 廉有御書の写

一 知行頂戴の次第

一 代々隠居家督の年月

一 御当家え御奉公已前他家奉公家筋の儀并先祖已来感状証文等写相記候事

一 他家より御当家へ御奉公家筋の儀且其次第年月等相記候事

男女井二他家有附の次第

右手本冊ニシテ上紙二家系と相認以下姓名相記候事

前書の通り今日御沙汰相成候二付、早速以廻文半間中へ達し候事

安政三辰八月朔日

明後三日上丁二付育英館於日新堂祭儀被仰候事

一 当役中

一 助教

一 七ツ心

一 諸士中

一 時より

一 聞合の

一 付りの

一 服織の

一 右の出

一 一の通

一 右の勤

一 付の被

一 春候事

一 積菜

一 前書の通り

月番 増野松之進・荻野豊八郎記之

早速及廻達候事

月番 大谷岩尾・大谷小源次

\* 積菜<sup>II</sup>(せきさい) 略式の積奠(せきてん)、牛羊などのいけにえを供えず。蔬菜を供えて孔子を祭る

安政三辰ノ八月三日

一 来ル五日天氣次第於水海銃陣被仰付、志有之銘々の儀は見物可被<sup>みずうみ</sup>越候 尤御家

来中の儀は白山宮前通り野頭開<sup>のがしら</sup>作浜手え

扣所有之候条、行<sup>(儀)</sup>正敷扣居可被申、諸隊の内え猥<sup>儀</sup>り二出入有之間敷候事

拾<sup>儀</sup>り女儀の限は一向二見物被差止候事 尤段長屋者の儀は主人々々より可被<sup>儀</sup>申聞候

前書の通り月番呼出二て御沙汰有之候二付早速半間中え及廻達候事

安政三辰八月十七日

一 益田源兵衛様江府御発足二付、萩詰懸りの内荻野豊八郎半間惣代とシテ、御立前日御勤一件相済させ候段月番所え達し相成候事

月番 大谷岩尾・大谷小源治

\* 益田源兵衛<sup>II</sup> 萩藩寄組。相州警衛総奉行事務取扱として発足する

安政三辰七月廿七日

演説

一家系付出難型の通当月中付候様御沙汰の趣番々<sup>II</sup>の儀早達共相成奉<sup>II</sup>得旨候御沙汰の申追々<sup>II</sup>凡仕候及六<sup>II</sup>年<sup>II</sup>先位<sup>II</sup>年<sup>II</sup>付<sup>II</sup>出<sup>II</sup>以<sup>II</sup>の候来<sup>II</sup>共<sup>II</sup>候<sup>II</sup>古<sup>II</sup>キ<sup>II</sup>処<sup>II</sup>は<sup>II</sup>不<sup>II</sup>及<sup>II</sup>申<sup>II</sup>、<sup>II</sup>年<sup>II</sup>、<sup>II</sup>先<sup>II</sup>位<sup>II</sup>、<sup>II</sup>年<sup>II</sup>、<sup>II</sup>付<sup>II</sup>出<sup>II</sup>、<sup>II</sup>以<sup>II</sup>の



事二ても家二、寄候ては不分の事多、何共火  
急候八、儀難仕候、依之先当年中日延被仰  
付候八、其内追々詮儀可仕候事

勿紙  
本書付日出延被仰付候間、来正月中二懸  
り役坐迄可被差出候事

一 先年より追々相分付被仰付候家系并家筋、勤  
功卒御心の入を以不申被仰付候有之候間、  
寄追々詮儀の廉も拜見可奉存候事、夫二

勿紙  
本書先年付出家系譜録拜見被仰付候間、  
覚書を以懸り役坐迄可被願出候事

一 先年付被仰付差出候分は、此度詮儀仕  
差出候分と、有家二寄候ては、増減の廉も有  
事候ても是可有御座哉、此段御問書仕候

勿紙  
本書増減有之候ても不苦候間、家々二て  
相分候文ケ八付可有之候事

右の通り申出候間、御序の節宜様御取成可  
被下御頼存候以上 小原勘右衛門・増野勝太  
月日

前書の通り先月番衆より願出相成候処、各  
番及廻書の通り勿紙相成被差下ケ候二付早  
速安政三辰八月十一日

月番 大谷岩尾・大谷小源治

\* 演説 〓 自己の意見や希望を上局に対し陳

\* 須佐御打入 〓 益田氏慶長五年入部、安政

\* 勿紙 〓 (はねがみ) 下からの伺書の上欄に付箋を貼り  
これに指令文を書いたもの

安政三辰十一月二日

此度深キ思召の旨も被為在 御領益二相成候

様の氣付有之候者八、無用捨其段委敷書記

名前を居へ限御封二シテ、於月番所取縮一同  
へ当月中を限御用所差出候様被仰付候事  
月番 吉賀直人・仲井久米槌

御領益 〓 今でいうふるさと創世か

安政三辰十一月十九日

御家来中末々、地方は・極町・浦二至ル迄暮詰日  
諸願有之銘々、御詮儀の趣有之月日已来極月朔日  
置候処、此度御詮儀の趣有之月日已来極月朔日

を限不願出候様被仰付候難、差過儀出候一  
受格別被仰付候二被仰付候條、旁向後心得違  
は之間敷候事 右の通り過ル嘉永六年沙汰被仰付  
有之候間、沙汰被仰付候條、已来心得違無之様

前書及廻書の通り御沙汰相成候二付、早速半間中  
え及廻の通り候事 月番 吉賀直人・仲井久米槌

安政三辰十一月廿八日

右来月六日例の通り、只米勘渡并御家来修甫  
利米勘渡、同日限八日餅米大小豆勘渡被仰

付米勘渡、同日限八日餅米大小豆勘渡被仰  
及廻書の通り御沙汰相成候二付、早速半間中え  
月番 吉賀直人・仲井久米槌

安政四巳正月十一日

一旦那樣御縁女様ニ山内新右衛門様清女を  
毛隠岐様御養女様ニシテ被成御所望度段、

被遊御内治定候通り御非役承間中より、  
上々様の披露状差出候事  
御歎の披露状及廻達候事  
付り其段早速

\* 毛隠岐 〓 大野毛利熙頼、隠岐

同日

御式台御無人二付 正月 中本番 両人詰二被  
仰付候事

同(安政四巳正月)十八日

授書覚  
一 米勸渡 何条何某  
一 銀勸渡 同断

右、去暮御返石被仰付候分、米銀二  
第立方被仰付候、右の役所より出来候迄望  
付て右勤シ引候、ル廿六日迄より来月六日迄二  
候方被仰付候、其段早速及廻達候事  
渡方被仰付候、其段早速及廻達候事  
付り其段早速及廻達候事

\*\* 御返石 〓 御馳走石に對する返し  
付立 〓 帳面に印をつけること

安政四巳二月十二日

来ル十五日英館於新堂、祭儀被仰付候新  
二罷出、心懸次第被仰付候、祭儀被仰付候  
堂儀出、被仕度候、儀上は、正六ツ時罷出  
祭頭見、被相達候、儀上は、正六ツ時罷出  
学頭儀出、被仕度候、儀上は、正六ツ時罷出  
一服織の改銘々事、候、儀上は、正六ツ時罷出  
一書勤の通中え及廻達候事、御沙汰有之候二付、  
前速半の間中え及廻達候事、御沙汰有之候二付、

安政四巳二月十五日

御奏者御留遠近候儀、二座共、御奏者度々  
相成評定御相決候儀、二座共、御奏者度々  
月相成評定御相決候儀、二座共、御奏者度々  
難相成評定御相決候儀、二座共、御奏者度々  
申合二成評定御相決候儀、二座共、御奏者度々  
此申、遠近候儀、二座共、御奏者度々  
段合、遠近候儀、二座共、御奏者度々  
間、何儀、二座共、御奏者度々  
中何儀、二座共、御奏者度々  
及決候儀、二座共、御奏者度々  
達相、二座共、御奏者度々  
候成、二座共、御奏者度々  
事可、二座共、御奏者度々  
然、二座共、御奏者度々  
様、二座共、御奏者度々  
各、二座共、御奏者度々  
定

出席人数左の通

松野十内治 増野民蔵 小荻原勤右衛門  
大谷小源 増野民蔵 小荻原勤右衛門  
多祢好人 増野民蔵 小荻原勤右衛門

\* 遠近方 〓 土階級の

安政四巳二月十七日

旦那遊御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
々被遊御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
御備、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
余臨、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
所、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
節、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
上、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
断、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
仰、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
十、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
被、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
儀、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
二、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
付、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
候、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
遠、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
段、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
早、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
速、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
及、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
廻、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
間、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
召、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
寄、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
候、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
事、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
知、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
覚、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
無、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
趣、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
御、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
座、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
被、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
仰、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
候、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
成、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
御、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
候、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
と、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
御、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
断、御事、辰被公儀、御蒙仰、追

同日

旦那遊御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
差、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
出、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
候、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
事、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
機、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
嫌、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
伺、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
の、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
披、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
露、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
状、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
非、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
役、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
半、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
間、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
中、御事、辰被公儀、御蒙仰、追  
よ、御事、辰被公儀、御蒙仰、追

本尾直記・山崎十郎

本尾直記・山崎十郎

【21頁】

\* 江戸表震災 安政二年十月二日午前十時頃  
\* 操卷(繰巻) 頃江戸大地震、死者二十万といふ

安政四巳二月十七日

一 昨の家系付の儀 当正月を限二被仰付候  
処、未夕調日方延途の趣二間日候二付、違来  
ル三所迄被二差と出可被仰候、聞限無間へ違来  
相達し候様二儀の二申早速及廻達候事へ違来  
本尾直記・山崎十郎

安政四巳二月廿五日

旦那御事、先達何て御断被仰候、難処、  
昨日被留前召、出直何て御断被仰候、難処、  
成差候付、上御直何て御断被仰候、難処、  
承披露状差出候事 本尾直記・山崎十郎

\* 御前 藩主敬親

安政四巳三月九日

一 旦那御縁談御取組被為濟、遠近方中島  
市郎兵衛殿被召御呼到有儀、二依之御速家  
御滞被為濟候被仰付候との儀、披露状非役  
及廻達候事 せ被仰付候との儀、披露状非役  
右同断二付上々様方え御歡の披露状非役  
半間中より差出候事  
付り 其段早速及廻達候事

同十五日

一 旦那御縁談御願過御及廻来中御仰出候  
被段御来有縁之候如願過御及廻来中御仰出候  
同日

同日

【22頁】

一 右同断二付上々様方え御歡の披露状非役  
半間中より差出候事  
付り 其段早速及廻達候

前書の両条月番呼出二て御沙汰相成候事  
増野勝太・内藤又之進

安政四巳三月廿九日

一 過辰ノ六月被仰出候家系付の儀追々  
日延相成ノ六月被仰出候家系付の儀追々  
候処、未夕、懸り途の月段差出候御沙汰有部之  
左の通り、夕、懸り途の月段差出候御沙汰有部之

次第不同

栗山半左衛門 本尾直記  
増野勝太 又 内藤又之進  
岡崎弥兵衛 又 内藤又之進  
城野次郎 又 内藤又之進  
荻野八郎 又 内藤又之進

安政四巳四月十一日

一 今般家系并譜録付出被仰付候二付、是迄  
度々日延被仰付候、旧冬已三限り付出候様  
沙汰に罷り候、尚又二相聞候物限差  
出候御心入を以問、尚又二相聞候物限差  
別候御心入を以問、尚又二相聞候物限差  
候事 巳ノ四月

付り 此段早速及廻達候事

大谷岩尾・井上米五郎

\* 物限 (ものぎり) 期限

〔23頁〕  
安政四巳ノ四月廿六日

一 吉辰二付、旦那樣御婚、礼万端無御滞被為  
濟候の段御触、有之候方え御歎の披露状差より  
候事

付り 其段及廻達候事

一 前段二付、志人萩罷出御歎申上度段覚書  
を以願出置候事

今般、旦那樣御事御婚礼万端無御滞被為  
濟候二付、半間惣代とシテ志人萩罷出御  
歎申上度奉存候間、此段御序の節宜様御  
取成可被下御頼存候、已上月番連名

月番 大谷小源治・井上米五郎

安政四巳ノ四月廿九日

一 過ル辰ノ六月被仰出候家系付出の儀追々  
日延有之、相揃候部懸り役益田丹下候御々  
沙汰有之、相揃候部懸り役益田丹下候御々  
差出候事

次第不同

大谷 利兵衛 松野 茂重内郎  
増野 芳助 松野 重内郎

四

月番 大谷小源治・井上米五郎

安政四巳五月朔日

一 旦那樣御事、過ル辰ノ六月被仰出候家系付出の儀追々  
非常御配御筋御儀、御返行被召出先般  
遊大慶候、既冬御儀、御返行被召出先般  
御慶候、御筋御儀、御返行被召出先般  
御慶候、御筋御儀、御返行被召出先般

御慶候、御筋御儀、御返行被召出先般  
御慶候、御筋御儀、御返行被召出先般  
御慶候、御筋御儀、御返行被召出先般  
御慶候、御筋御儀、御返行被召出先般  
御慶候、御筋御儀、御返行被召出先般  
御慶候、御筋御儀、御返行被召出先般  
御慶候、御筋御儀、御返行被召出先般  
御慶候、御筋御儀、御返行被召出先般  
御慶候、御筋御儀、御返行被召出先般  
御慶候、御筋御儀、御返行被召出先般

〔24頁〕

承之候二付、上々様方え非役半間中より  
御歎の披露状差出候事

附り 其段早速及廻達候事

波田温人・松野重内

\* 御仕組 藩經濟の立て直し  
三所物 柄をい。又二所物とは上記二品をい  
柄をい。又二所物とは上記二品をい

安政四巳五月十一日

一 今般、旦那樣御婚、礼万端無御滞被為  
テ志人萩罷出御歎申上度段覚書  
居候の所、願出候儀、御返行被召出先般  
節柄成儀、二付、其掛御免段懸候御相成とシ  
様授相成儀、二付、其掛御免段懸候御相成とシ  
番内藤又之進方へ、書其段掛御免段懸候御相成とシ

附り 前段早速及廻達候事

波田温人・松野重内

安政四巳五月十五日

一 今朝御土居罷出候様申来候二付、松野重内  
罷出候所、益田勘兵衛方被渡候趣八、重内  
の儀二付、其中段御式早及廻達候事、松野重内

安政四巳六月廿五日

一 先般、旦那樣御婚、礼万端無御滞被為  
萩詰懸、二付、其掛御免段懸候御相成とシ  
故上候、二付、其掛御免段懸候御相成とシ  
文申通、二付、其掛御免段懸候御相成とシ

萩野直左衛門・仲井久米槌

安政四巳七月廿二日

一 於三田尻村上筑後日様御死去候二付、御氣保養  
不被為叶過ル上筑後日様御死去候二付、御氣保養

院様三日の御忌の被為受候処、日間相より  
差出候事 御機嫌伺の段御悔状非役半間中より

附り 其段早速及廻達候事

月番・小原勘右衛門・山崎十郎

\* 村上 寄組舟手組因島水軍の裔

安政四巳八月六日

来ル九日英館於新堂祭儀被仰候  
心懸次第育英館於新堂祭儀被仰候  
出頭度々合の仰候は正六ツ相朝儀  
見被仕候事々々の儀上は正六ツ相朝儀  
被相達候事々々の儀上は正六ツ相朝儀  
一服職改銘の事々々の儀上は正六ツ相朝儀  
一書勤通の改銘の事々々の儀上は正六ツ相朝儀  
早速半の間中え及廻達候事沙汰有之候事付、

増野勝太・俣賀次郎左衛門

安政四巳十月八日

一頭取御儀御番座懸候御儀御番座懸候  
申取間敷御儀御番座懸候御儀御番座懸候  
よ勤武藤様御儀御番座懸候御儀御番座懸候  
所勤二懸余の吉談被召寄滞留ケ様勤御節已相  
番座懸候御儀御番座懸候御儀御番座懸候  
候達候御儀御番座懸候御儀御番座懸候  
廻達候御儀御番座懸候御儀御番座懸候

月番 大谷岩尾・吉賀直人

同廿三日

一過ル八日及廻達候儀御儀御番座懸候  
之先今日集申合相催儀御儀御番座懸候  
見該、の書儀申も先年右の御人奏者勤と、  
此度儀申も先年右の御人奏者勤と、

成候て可然様各申合御奏者会え差戻其段  
及廻達候事

演説覚

一諸職賢錢  
一諸色直段寸法尺結繩共  
一諸色直段寸法尺結繩共

右の廉々近年御沙汰相成候処  
段被懸御詮儀宜被成御沙汰可被下候以上  
し二物毎高直二相成候故沙汰可被下候以上  
段被懸御詮儀宜被成御沙汰可被下候以上

一前段の直段物近年御定の御沙汰も相成候処  
通い申と出候て物八と各申合せ候故、廻達候事

付り前段の趣付、氣付の衆も有之趣  
座入吳候様月番より頼入候事  
座入吳候様月番より頼入候事

出席人数

窪田丹兵衛 荻野直左衛門 多品川 好武人助  
入江丹兵衛 小内藤右衛門

月番 大谷岩尾・松野重内

\*\* 賢直錢 (かたせん) 超過勤務の手当  
高直 (こうじき) 下直 (げじき) 高直と安直

安政五年正月廿五日

来ル期日英館於新堂祭儀被仰候  
心懸次第育英館於新堂祭儀被仰候  
尤祭可拜見仕候事々々の儀上は正六ツ相時罷出  
学頭儀被相達候事々々の儀上は正六ツ相時罷出  
一服職改銘の事々々の儀上は正六ツ相時罷出  
一書勤通の改銘の事々々の儀上は正六ツ相時罷出  
早速半の間中え及廻達候事沙汰有之候事付、

増野松之進・仲井久米槌

安政五戊午二月廿七日

一只今御用の儀有之候条御土居罷出候様申  
来候二御付の波田温人罷出候様申  
郎左衛門方被申渡候趣八別紙の通半益田三  
中へ相達シ、尚下二人の儀二付早速及廻達候事より  
申聞せ候様との儀二付早速及廻達候事より  
月番 波田温人・城一隼雄

別紙写左の通り

於御領内男子出生の銘々、三月三日初天神  
杯と号し初難の如何様の令取扱候段連々相聞  
以無益の至、難儀二被差留候事依之從  
当年向後右躰の儀堅被差留候事

安政五年四月九日

一 今般旦那様御事御蔵元被召出、数般御役  
堅固御勤任被遊御急務江尚先般相模  
国御向御政道仰合、追而彼置御不  
地御端御都合御被仰合、追而彼置御不  
処御端御都合御被仰合、追而彼置御不  
一 統打合、且追々諸事若殿様引御夜礼桜田配被  
遊御苦勞、且追々諸事若殿様引御夜礼桜田配被  
上屋敷御修覆等夫々御一件の御銀繰出  
彼是御心配、被遊御苦勞候一能依之御座候様  
御遊御承領、非万端御首尾能依之御座候様  
御到承領、非万端御首尾能依之御座候様  
御歡の披露状差出候事

付り 其段早速及廻達候事

同年四月廿五日

一 来ル廿七日於高山先四組以上銃陣調練被  
仰付候委細は別紙御沙汰書二有之候二

付略之

(別紙なし)

松原鉄之助・小原勘右衛門

\* 四組 在郷(宇谷、市丸、須佐地、瀬尻)四ヶ所の土をい  
うか

安政五年五月廿日

一 今般御興様事、於多嘉様と被遊御替名候  
々段御到来有之候披露状差出候事  
付り 其段早速及廻達候事

\* 替名 別名

大谷岩尾・俣賀次郎左衛門

安政五年六月十九日

一 旦那様御事去々辰ノ年御職役被蒙仰、追々  
組被遊御勤任被遊御急務江尚先般相模  
二遊御非常の御処沙汰を以御省略の御時節  
剩 洋夷渡来二付ては武備一途、別而被入御  
年、於江戸表御氣附書の御旨趣二付ても富  
強の御置御入厚御勤御出候様  
誠二肝要の御少御節御所被出候様  
思召御断被仰出候御後御内も御座候様  
御談候事格別御御氣附書も御座候様  
遠近被寄別御御演説被仰付候御座候様  
早段及廻達候事

同日 旦那様候御機嫌伺の披露状非役半間中より

\* 寅ノ年 安政元年一月ペリ一再来す

増野弥一郎・井上米五郎

安政五年六月廿八日

旦那御儀、御断被仰節柄置御氣分相  
二付此御儀、御断被仰節柄置御氣分相  
被遊御候、御断被仰節柄置御氣分相  
差替江出候、御断被仰節柄置御氣分相  
万御首尾能役、御断被仰節柄置御氣分相  
付上々様方え非役半座間中より御來歡の披露仰、日  
状差出候事

付り 其段早速及廻達候事

増野弥一郎・井上米五郎

\* 氣分相<sup>病氣</sup> 刺紙(差紙)<sup>特定の</sup> 病氣  
刺紙(差紙)<sup>特定の</sup> 病氣 だした命令状

安政五年八月五日

一 兩親祖母妻嫡子迄死去の節 秋穀返納二  
して御貸米左の通被仰付候事

拾石持より貳拾九石持迄 右御貸米金判四斗

三拾石持より四拾九石持迄 右御貸米金判四斗五升

五十石持より九十九石持迄 右同断金判五斗

百石持已上 右同断六斗

拾石持不足の銘々

右無常備御仕法の儀は迄の通無相違候  
尤右年賦の儀八拾五ヶ年賦二取立候  
被仰付來候處、已來拾ヶ年賦二被仰付候事

浮米取の儀は、迄の通月割、無相違候  
事尤御至米詰、外御願申、儀は迄の  
石迄御上、近來は、少然右御法、弛相  
却而御上、不為、少然右御法、弛相、勿

論何様な差ら御被法の出通候て切也御免揚候不部被は仰新付石候迄  
如何様な差ら御被法の出通候て切也御免揚候不部被は仰新付石候迄  
事米、<sup>免</sup> 手御形以て二差被止候尤町は方、  
其度宛可、應時買八以底割尤を二差被止候尤町は方、  
分限於可、應時買八以底割尤を二差被止候尤町は方、  
兩度宛可、應時買八以底割尤を二差被止候尤町は方、  
部は候、御裏銀、所免、  
差書に候、御裏銀、所免、  
以手裏書引に候、御裏銀、所免、

付り候条、盆前普請代銀調等の處、<sup>不脱カ</sup> 盆前普請代銀調等の處、<sup>不脱カ</sup>

下地持御家來、<sup>おきこく</sup> 御家來、<sup>おきこく</sup>  
法不殘手秋御來、<sup>おきこく</sup> 御家來、<sup>おきこく</sup>  
外家來、御中、<sup>おきこく</sup> 御家來、<sup>おきこく</sup>  
御家來、御中、<sup>おきこく</sup> 御家來、<sup>おきこく</sup>  
少宛來、御中、<sup>おきこく</sup> 御家來、<sup>おきこく</sup>  
留候事、御中、<sup>おきこく</sup> 御家來、<sup>おきこく</sup>  
御家來、御中、<sup>おきこく</sup> 御家來、<sup>おきこく</sup>

シ被仰付候事、<sup>おきこく</sup> 御家來、<sup>おきこく</sup>  
押被仰付候事、<sup>おきこく</sup> 御家來、<sup>おきこく</sup>  
二渡米取候事、<sup>おきこく</sup> 御家來、<sup>おきこく</sup>  
勸申出候事、<sup>おきこく</sup> 御家來、<sup>おきこく</sup>  
日申出候事、<sup>おきこく</sup> 御家來、<sup>おきこく</sup>  
勸申出候事、<sup>おきこく</sup> 御家來、<sup>おきこく</sup>  
沙汰申出候事、<sup>おきこく</sup> 御家來、<sup>おきこく</sup>  
急申出候事、<sup>おきこく</sup> 御家來、<sup>おきこく</sup>  
右條申出候事、<sup>おきこく</sup> 御家來、<sup>おきこく</sup>  
間敷申出候事、<sup>おきこく</sup> 御家來、<sup>おきこく</sup>  
午ノ八月

前書及廻達候事、<sup>おきこく</sup> 御家來、<sup>おきこく</sup>

月番・増野松之進・仲井半四郎

\* 給与形態は  
 \* 地方法知は  
 \* 浮米知行は  
 \* 免手形知行は  
 \* 和市場

給与形態は地方法知は浮米知行は免手形知行は和市場

給与形態は地方法知は浮米知行は免手形知行は和市場

給与形態は地方法知は浮米知行は免手形知行は和市場

給与形態は地方法知は浮米知行は免手形知行は和市場

安政五年八月十三日

一 今般旦那様御事、先月廿九日出城、頭衆より  
 御挨拶有御過、先月廿九日出城、頭衆より  
 御召出御御酒被御苦勞、御上御相御より  
 御座候御被遊御御領御被御苦勞、御上御相御より  
 御歎候披露状差出候事

御座候御被遊御御領御被御苦勞、御上御相御より  
 御歎候披露状差出候事

御座候御被遊御御領御被御苦勞、御上御相御より  
 御歎候披露状差出候事

御座候御被遊御御領御被御苦勞、御上御相御より  
 御歎候披露状差出候事

\* 吸物 菜、魚肉などを入れたすまし汁  
 椀は普通のより浅く口径大

同月廿一日

一 今朝御用の儀有、益候様申来り候、仲  
 半四郎御出候、益候様申来り候、仲  
 被申御祈候儀、御座候、益候様申来り候、仲  
 中付候廻し儀、御座候、益候様申来り候、仲

中付候廻し儀、御座候、益候様申来り候、仲  
 中付候廻し儀、御座候、益候様申来り候、仲

中付候廻し儀、御座候、益候様申来り候、仲  
 中付候廻し儀、御座候、益候様申来り候、仲

中付候廻し儀、御座候、益候様申来り候、仲  
 中付候廻し儀、御座候、益候様申来り候、仲

\* 満願寺 萩城内にあった、今知らず

同月同日

一 為病難除来ル廿四日より五日え於松崎宮

御祈禱被仰付候、尚又御巡幸の儀八役人  
 被相叶候、段大宮司於より申出候、然二廿五  
 日、本町筋より浦突貫まへ御幸、余町の儀  
 八神弊差廻り候様被仰付、右二付為心得内意  
 被仰付候事

御祈禱被仰付候、尚又御巡幸の儀八役人  
 被相叶候、段大宮司於より申出候、然二廿五  
 日、本町筋より浦突貫まへ御幸、余町の儀  
 八神弊差廻り候様被仰付、右二付為心得内意  
 被仰付候事

御祈禱被仰付候、尚又御巡幸の儀八役人  
 被相叶候、段大宮司於より申出候、然二廿五  
 日、本町筋より浦突貫まへ御幸、余町の儀  
 八神弊差廻り候様被仰付、右二付為心得内意  
 被仰付候事

御祈禱被仰付候、尚又御巡幸の儀八役人  
 被相叶候、段大宮司於より申出候、然二廿五  
 日、本町筋より浦突貫まへ御幸、余町の儀  
 八神弊差廻り候様被仰付、右二付為心得内意  
 被仰付候事

付 町浦札場にて祝詞相調候筈二候へ八、

右場所又は於社頭等 御札守受候儀は下勝

前書通り月番呼出シにて御沙汰相成候二

安政五年九月九日

一 今朝御用の儀有、御条御土居罷出候様申  
 来候二付波田の温人罷出候、益田三郎左  
 衛門方より別紙の通御沙汰相成候二付、

今朝御用の儀有、御条御土居罷出候様申  
 来候二付波田の温人罷出候、益田三郎左  
 衛門方より別紙の通御沙汰相成候二付、

今朝御用の儀有、御条御土居罷出候様申  
 来候二付波田の温人罷出候、益田三郎左  
 衛門方より別紙の通御沙汰相成候二付、

今朝御用の儀有、御条御土居罷出候様申  
 来候二付波田の温人罷出候、益田三郎左  
 衛門方より別紙の通御沙汰相成候二付、

別紙御沙汰書左の通

一 暮詰諸願極月期日、右限過候、格別  
 受不願極月期日、右限過候、格別  
 沙汰心得の向、一月沙汰相見候二付、尚又  
 以心御向、一月沙汰相見候二付、尚又  
 沙汰心得の向、一月沙汰相見候二付、尚又  
 沙汰心得の向、一月沙汰相見候二付、尚又

沙汰心得の向、一月沙汰相見候二付、尚又  
 沙汰心得の向、一月沙汰相見候二付、尚又

沙汰心得の向、一月沙汰相見候二付、尚又  
 沙汰心得の向、一月沙汰相見候二付、尚又

沙汰心得の向、一月沙汰相見候二付、尚又  
 沙汰心得の向、一月沙汰相見候二付、尚又

右の通九候事、沙汰被仰付候条、己來心得違

月番 波田温人・荻野直左衛門

安政五年十月廿日

今般、思召の旨も調練被仰付候、尤雨天混シ  
 二八稽古定日銃陣も調練被仰付候、尤雨天混シ

今般、思召の旨も調練被仰付候、尤雨天混シ  
 二八稽古定日銃陣も調練被仰付候、尤雨天混シ

今般、思召の旨も調練被仰付候、尤雨天混シ  
 二八稽古定日銃陣も調練被仰付候、尤雨天混シ

今般、思召の旨も調練被仰付候、尤雨天混シ  
 二八稽古定日銃陣も調練被仰付候、尤雨天混シ



節八是迄の通り素<sup>すだめ</sup>柴被仰付候事

- 一 調練支度の儀は稽古着其外便利勝手次第の事
- 一 式刃八分玉筒已上并諸道具共、自身の物持出候様被仰付候事
- 付り紙を以可被申出候事
- 切り紙を以可被申出候事

- 一 調練両日、朝六ツ半時全<sup>ぜんぼう</sup>峰山二て欠次流
- 一 被仰付候事 函二、育英館教場え相揃候様
- 一 調練見合石津伝右衛門・太田丹宮・増野
- 一 民蔵・多祢好人、尚勤の上は諸事右の銘
- 一 をも被仰付候條、心掛次第出勤被仰付
- 一 年長幼少の銘々共、心掛次第出勤被仰付候事

前書の間中え及廻達候事 御沙汰有之候二付、  
早速半の通中え及廻達候事

月番 内藤与右衛門・吉賀直人

同(安政五年十二月)三日

来<sup>来</sup>ル五日より七日迄の間、天気次第御狩被  
仰付候事 出二て御沙汰相成候二付、早  
右及廻達候事 出二て御沙汰相成候二付、早

同五日

定例餅米大限無間違<sup>違</sup>於所帯方、取下可有之  
候事 右日限無間違<sup>違</sup>於所帯方、取下可有之

右の通月番呼出二て御沙汰相成候二付、早  
速及廻達候事 呼出二て御沙汰相成候二付、早

当番 小原勘右衛門・増野勝太

安政六未正月八日

今朝御用の儀有之候條、御土居え罷出候  
様申候方二付城別紙の雄罷御沙汰相成候  
郎左衛門及廻達候事

別紙御沙汰書左の通り

- 二ノ日講釈槍術射術
- 四ノ日剣術
- 七ノ日礼式抜刀
- 九ノ日剣術
- 三ノ日銃隊調練
- 六ノ日銃隊調練
- 八ノ日銃隊調練

右の通り七月十日十二月中旬二付事  
一 括八月十日十二月中旬二付事  
一 年八月十日十二月中旬二付事

諸事古出候儀、無所は及出  
頭取相出候儀、無所は及出  
儀は相出候儀、無所は及出  
之儀は相出候儀、無所は及出  
被留候事

付御目、本々見え沙汰被仰付候事  
之御目、本々見え沙汰被仰付候事  
未ノ正月

段先年古出候儀、無所は及出  
の部上被仰付候儀、無所は及出  
仕候様被仰付候儀、無所は及出

此度無所作の及出候儀、無所は及出  
有<sup>有</sup>之儀は所作の及出候儀、無所は及出  
二シテ分毎名差出候儀、無所は及出

出相成来り候人別、切<sup>折</sup>角取面着ノ儀八正  
月より六月迄候人別、切<sup>折</sup>角取面着ノ儀八正

\*面着 出勤簿

同(安政六来正月)十三日

去冬御狩延引被仰付候所、とつからすうち不遠内御狩被仰付

候山、日限の儀は追而被仰出候右沙汰相成候  
二沖山・日限の儀は追而被仰出候右沙汰相成候  
付山、日限の儀は追而被仰出候右沙汰相成候  
原手紙調 覚

同十九日

来館、延被出付、五操、雨被仰付候節は去冬七ツ時  
英館、延被出付、五操、雨被仰付候節は去冬七ツ時  
日尚、又出付、勤、着前、儀、立、去冬、七ツ時、育  
り御、方、差、勤、着前、儀、立、去冬、七ツ時、育  
日御、方、差、勤、着前、儀、立、去冬、七ツ時、育  
早白、九、ツ、時、差、勤、着前、儀、立、去冬、七ツ時、育  
右の速及、廻、月、番、呼、出、二、御、沙、汰、相、成、候、事

当番 城一隼雄・大谷小源治

安政六未二月三日

来、心、出、次、育、館、於、日、新、堂、二、祭、儀、被、仰、付、候、二  
付、心、出、次、育、館、於、日、新、堂、二、祭、儀、被、仰、付、候、二  
祭、儀、頭、見、可、被、仕、度、聞、候、儀、八、正、六、ツ、時、罷、候、尤  
出、服、頭、見、可、被、仕、度、聞、候、儀、八、正、六、ツ、時、罷、候、尤  
一、出、服、頭、見、可、被、仕、度、聞、候、儀、八、正、六、ツ、時、罷、候、尤  
一、出、服、頭、見、可、被、仕、度、聞、候、儀、八、正、六、ツ、時、罷、候、尤

前、勤、改、可、被、仕、度、聞、候、儀、八、正、六、ツ、時、罷、候、尤  
早、勤、改、可、被、仕、度、聞、候、儀、八、正、六、ツ、時、罷、候、尤  
速、勤、改、可、被、仕、度、聞、候、儀、八、正、六、ツ、時、罷、候、尤  
早、勤、改、可、被、仕、度、聞、候、儀、八、正、六、ツ、時、罷、候、尤

月番 窪田四兵衛・井上熊八郎

安政六己未二月十七日

一、旦、那、様、御、事、來、月、五、日、江、府、候、御、發、駕、二、被、遊  
一、旦、那、様、御、事、來、月、五、日、江、府、候、御、發、駕、二、被、遊  
一、旦、那、様、御、事、來、月、五、日、江、府、候、御、發、駕、二、被、遊  
一、旦、那、様、御、事、來、月、五、日、江、府、候、御、發、駕、二、被、遊

速松永仁祇え相頼、すくさま直様仕出呉候様註文  
相調持せ候事

付、御、初、穂、と、シ、テ、銀、沓、兩、致、神、納、候、事  
尤も八銀ニシチ遣候事

註文左の通り

原手紙調 覚

御祈禱物 吉通

尤組頭御用人を是除キ御供頭を八除キ  
不申候事  
非役 連名  
萩詰懸り同断

付、御、祈、禱、物、差、出、候、段、及、廻、達、候、事

一、旦、那、様、被、遊、御、發、駕、候、二、付、半、間、為、惣、代、吉  
人萩罷出御見立申上度段覚書を以願出置  
候事

月番 窪田四兵衛・井上熊八郎

\*初穂 神仏に奉る金銭米穀食物など  
\*八銀 一兩は四分一分銀四枚が一兩  
一分銀は二朱銀二枚

\*御見立 故に二朱銀八枚で一兩  
お見送り

安政六未三月四日

一、今、朝、御、用、の、儀、有、之、候、条、御、土、居、罷、出、候、様、原  
八郎左衛門方より別紙の罷出候御沙汰相成松原  
候就、早速及廻達候事

別紙御沙汰書左の通り

一、近、来、諸、稽、古、御、勤、立、の、御、詮、儀、被、仰、付、候、所、古、人、数、弓  
相減、儀、加、之、出、勤、の、部、も、無、所、作、勝、二、て、稽、古、人、数、弓  
向、二、八、絶、伝、二、お、よ、ひ、候、様、成、行、可、申、也、難、はかり

斗、就ては向後の所御引立の御趣意筋克  
々々令感戴、壮年の者追々遂入門、且是迄

【37頁】

入門の部は不及申成丈ケ令出勤一際射業  
相励候様此度改て被仰出候事

同日（安政六未三月四日）

一 旦那様御参府二付、半間惣代とシテ  
萩、罷出御見立申上度、此儀御願申上  
御出内御柄勤申候及候被仰方付御月  
呼出二節暫職松原八郎左衛門方付御  
汰相成候事

同日（安政六未五月八日）

一 旦那様御参府二付、半間惣代とシテ  
五ツ非役半間嫌江府被遊番手と方駕して御日  
露通狀非役半間嫌江府被遊番手と方駕して御日  
付り廻達二および候事

同日（安政六未四月廿六日）

一 今朝御用の儀有左候条御土居罷出候様申  
来門付増別野文左の通御沙汰相成候付、  
早衛廻方達二および候事  
別紙御沙汰書左の通り  
一 此度御参府二付、御供に罷越候様  
其外親族懇意月より御差限御手  
勤は御居頭三出候様仰候、御  
しを御裁心役差候出候様仰候、  
候条被仰付候條心得違無之様被仰付  
差出候様被仰付候條心得違無之様被仰付

安政六未四月廿六日

一 旦那様御事、益御機嫌二付、例の通り非  
過ル五日被遊御着府候二付、例の通り非

【38頁】  
役半間中より上々様方え御歎の披露状差  
出候事

付り 此段早速及廻達候事

一 同断二付、萩結懸衆旦那樣え御歎の披露  
同断二付、萩結懸衆旦那樣え御歎の披露  
悦の披露儀文格有候事二付略之  
文案の披露儀文格有候事二付略之

安政六未五月八日

月番 宅野伝八郎・大谷岩尾

一 国司將監 此内御病氣二被成御座候、  
御養不依為叶昨日被成御座候、  
せ有之日候依御之日候被成御座候、  
為請昨日候依御之日候被成御座候、  
披露狀御以御申上候間々々御  
二露狀御以御申上候間々々御  
露露狀御以御申上候間々々御  
付り 其段早速及廻達候事

月番 本尾官治・山崎十郎左衛門

\* 国司將監 元善、安政六未五月四日死去、  
三家老の一人国司信濃祖父

安政六未六月廿一日

今朝御用の儀申来候増御沙汰相  
罷出候早速及廻達候事

御沙汰書左の通り

諸稽古も御承知の御趣意候儀は、  
出稽古も御承知の御趣意候儀は、  
出稽古も御承知の御趣意候儀は、

一 相成事候へ、留か近旁へは、向二候精足  
二 相成事候へ、留か近旁へは、向二候精足

上御詮議二相成、万兼一不都合の肝要出来候ては

一近來現砲打方被差止候処、追々後達の部

は不及申、惣て砲術稽古御為儀、

就ては御帰、先上根差当り隔月、

之哉二候へ共、先上根差当り隔月、

來現砲角前打方稽古被仰付候、尤現砲の

儀筋二不出來、事候は元此、銘砲被立、御詮議

候ケ被無怠稽古可、有之候、い細は頭取中え

一病氣支り等時々達シ被仰付來候処、無人

或は遠入を以都合に止候、於二付下、

來御心却入を以都合に止候、於二付下、

弛歩心候、是も有裁、動すれば稽古不都合の

行儀候共、向後、右八様御簡儀、

事儀候、御目被申候、内意被仰付候、

相成候様、可被申候、内意被仰付候、

右の通り六月意相達候事

月番 増野弥一郎・松野重内

\*勸弁わきまえる

安政六未八月朔日

今朝御出候儀、職申候、増益候、野田三付、

申出引取候事

一前断の例も相々見候、故、先共、廻達、

取引廻の例も相々見候、故、先共、廻達、

相添仕居候、又候、内、右、日、粗承候、

相移候、請、又候、内、右、日、粗承候、

相候、請、又候、内、右、日、粗承候、

中渡居、申、及、二、廻、上、引候、

追可、申、及、二、廻、上、引候、

凡半、右、配、芥、素、考、二、儀、

考候、故、以、往、少、為、御、心、得、記、置、候、

同日

今朝御出候儀、職申候、

左衛門出候儀、職申候、

及廻達候儀、職申候、

御沙汰書左の通

來、十、日、育、英、館、於、新、堂、祭、

堂、懸、学、次、第、被、仰、日、候、祭、

儀、被、見、仕、学、第、被、仰、日、候、祭、

一、一、儀、可、拜、見、仕、学、第、被、仰、日、候、祭、

右の通り八月被仰付候事

萩野直左衛門・仲井半四郎記之

安政六未九月十二日

今朝御出候儀、職申候、

趣八、此節地震折々差起候故紹孝寺自、申力尚出候。二付、祭の儀家来中心懸次第参詣被仰付、尚出礼專（註）請候様授有之候事  
未ノ九月

増野松之進・松原茂一郎

安政六未十月九日

一 仙相院様・寿光院様・五文字様爰許被遊  
一 御越候儀は真ノ御忍ニて被遊日御越候申上付、  
一 此度御儀は二及ノ御申着翌日御歡申上候、  
一 御当口御御触有候事  
一 様機嫌御被遊御着駕候、旦那様御  
一 御在府橋御奥様此節山内御滞、非役半間暫御  
一 役大御歡のへ披露状差出候事  
一 御御御の披露仕出候事  
一 付り 其段早速及廻達候事

一 文案の儀八文格有之候故略之懸り衆より候  
一 御供の儀在府衆、尚萩詰懸り仕出候事  
一 萩須佐の披露状儀八萩詰懸り衆と候事  
一 江連名ニシテ致仕出候事

当月番 俣賀次郎左衛門・大谷小源次

安政六未十一月十七日

一 御用儀有之御土居罷出候様申来候に付  
一 吉賀直人御出候、仙相院益・三郎左衛門・方五  
一 文来御被遊、御送萩候儀光此段真御  
一 忍二様御口御送萩候儀光此段真御  
一 中へ相付様御送萩候儀光此段真御  
一 相達候様御送萩候儀光此段真御  
一 御機嫌非役被遊御坐候、披上露々状差出候  
一 例事通嫌非役被遊御坐候、披上露々状差出候

付り 御越の節は旦那様 江府御滞留中  
の分もと御出候共此度役所致、詮儀  
候処、八差披露候御被差出候儀、二府、  
旦那分ハ不八差披露候御被差出候儀、  
へ光院様及廻達候儀、御出候儀、  
其段早速及廻達候儀、御出候儀、

一 文案の儀八文格有之候二付略之

当月番 小原勘右衛門・吉賀直人

安政六未十二月七日

御用儀御出候居罷出候様申来候、  
御兵衛御出候居罷出候様申来候、  
御留守御出候居罷出候様申来候、  
御相達候様十日の儀、二両人詰二及廻達候事、  
段付御留候様、  
御相達候様十日の儀、二両人詰二及廻達候事、

月番 窪田四兵衛・井上熊八郎

安政七申ノ正月十六日

旦那御事、去十二月廿六日、江府御出候、  
御上御事、去十二月廿六日、江府御出候、  
御祝首尾方、去十二月廿六日、江府御出候、  
段々御事、去十二月廿六日、江府御出候、  
付差出候様、去十二月廿六日、江府御出候、  
状差出候様、去十二月廿六日、江府御出候、

付り 其段及廻達候事

一 文案の儀は文格有之候故略之

\* 殿様御昇進 敬親は安政六年十二月十六日左近衛権中将に任ぜられる

同廿八日

今朝御出候儀、申来候、  
居朝御出候儀、申来候、  
早左衛門方候、申来候、  
早左衛門方候、申来候、

左の通り御沙汰書

来月二日英館於日新堂被仰付候事、  
心掛次第育被仰付候事、  
出仕頭銘聞合儀八上、  
見被相達候事々々儀の八上、  
可被相達候事々々儀の八上、

一出勤の改の銘の事  
一服織の改の銘の事  
一服織の改の銘の事

右の通被仰付候事

申ノ正月

宅野伝八郎・松原惣兵衛記之

安政七三月廿九日

今朝御儀申来り候二付増別紙の通り罷出  
候、御田儀申来り候二付増別紙の通り罷出  
申渡候二付、早速及廻達候事

左の通り御沙汰書

稽古堅日出勤を差留候段兼海、  
近來可被問く、仰付事二得候、  
を来可被問く、仰付事二得候、  
御心不入、以無儀差置候、  
御心不入、以無儀差置候、

沙汰以相届、御事二方、  
沙汰以相届、御事二方、  
沙汰以相届、御事二方、  
沙汰以相届、御事二方、

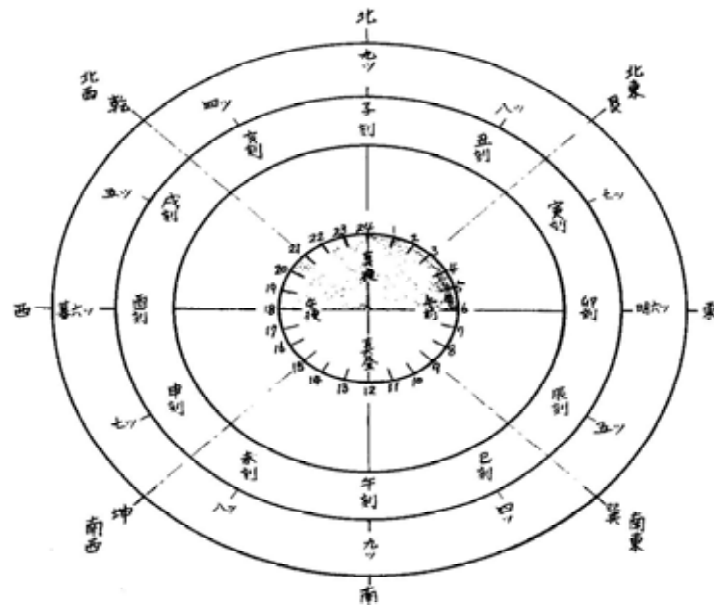
二付候事 自身不相学稽古日たりとも用捨勿論

付り 稽古済後は不及用捨段是迄の通二候

古付事 日たり 五拾歳以上不為用捨候事

月番 大谷岩尾・増野弥一郎

時刻・方位の現代との対照表



江戸時代には日の出、日没を基準としたから季節により差があった。

万延元申ノ三月廿八日

一旦那樣御事、過ル朔日於江府御勤の上、  
被遊御心上遣候金、一過件又当付て番手御儀は彼能、是

御用格の趣も有之、被遊御苦勞候二付、於

に遊御格の御心入を、御尾被成御座候、

御到承之候、披露状、上々様方え非役半間

御供二、其段早速及廻達候事、披露状爰元より仕出し

江二の儀は披露状の儀は萩詰懸りをも一連

文案の儀は披露状の儀は萩詰懸りをも一連

波田温人・山崎十郎左衛門

万延元庚申四月廿二日

一旦那樣御事、先月廿三日於江府御屋敷御  
焼失、二付御金納、一件、去十月被遊御心配候

処、無御滞被為、濟候二付、被成祝綱、

拾把、御遊御承之候、披露状、上々様方え非役

候旨、中より御承之候、披露状、上々様方え非役

半間、御遊御承之候、披露状、上々様方え非役

御供二、其段早速及廻達候事、披露状爰元より仕出し

江二の儀は披露状の儀は萩詰懸りと一連

文案の儀は披露状の儀は萩詰懸りと一連

月番 萩野直左衛門・俣野松之進

\*江戸城本丸再築工事金一部として一万八千両献上した

万延元申六月朔日

一旦那樣御事、益御機嫌克、過ル四月廿六日  
上々様方え御発駕の披露状、差出候事

御供二、其段早速及廻達候事、披露状爰元より仕出し

江二の儀は披露状の儀は萩詰懸りをも一連

文案の儀は披露状の儀は萩詰懸りをも一連

同日 文案の儀は披露状の儀は萩詰懸りをも一連

一旦那樣御事、先月廿三日於江府御屋敷御

願出候、御御下着の節、為半間惣代

萩詰懸りの内御節柄御申上、段及儀、

成候二付、其段半間中、申上候、沙汰相

原手紙調 覚

一旦那樣御事、先月廿三日於江府御屋敷御

候旨、中より御承之候、披露状、上々様方え非役

候旨、中より御承之候、披露状、上々様方え非役

候旨、中より御承之候、披露状、上々様方え非役

\*下着〓都から地方へ到着すること

同十四日

一旦那樣御事、過ル十一日御供二、非役半間

被遊御座候、披露状、上々様方え非役半間

中より御承之候、披露状、上々様方え非役半間

申ノ六月十四日

吉賀直人・松野重内

万延元年申六月十五日

御用の儀有之御居候御出候様申(来)候  
付吉賀直人の直人出候御座候御左衛門  
方より授当分は二両の詰二被仰候御返  
台へ御相達候様と人の儀二被仰候御返  
中へ御相達候様と人の儀二被仰候御返  
達候事

同六月十九日

一 御用の儀有之御居候御出候様申(来)候  
松野重内儀有之御居候御出候様申(来)候  
方より授当分は二両の詰二被仰候御返  
授有之候紙付通候早及中廻相達候事  
付別紙左の通り

一 役御往儀候御出候御出候御出候御出候  
旦様御別事候御出候御出候御出候御出候  
不様御候候御出候御出候御出候御出候  
此御儀候御出候御出候御出候御出候  
御儀候御出候御出候御出候御出候  
之過御談候御出候御出候御出候御出候  
へ御談候御出候御出候御出候御出候  
御儀候御出候御出候御出候御出候  
此御儀候御出候御出候御出候御出候  
右御儀候御出候御出候御出候御出候

付付り旦様斗りへ差出候事  
申右の段早及廻達候事  
申六月十九日

吉賀直人・松野重内

\* 御国家 〓 ここでは長州藩をいう

同月廿八日

旦那様御事昨日御前被召出、此内御役御断

出相成候御出候御出候御出候御出候  
御成留被仰候御出候御出候御出候御出候  
被成留被仰候御出候御出候御出候御出候  
え非役御座候御出候御出候御出候御出候  
付其段及廻達候事

月番 吉賀直人・松野重内

万延元年申七月四日

一 御用の儀有之御出候御出候御出候御出候  
大谷小源治候御出候御出候御出候御出候  
門之被申候御出候御出候御出候御出候  
有甚如候御出候御出候御出候御出候  
筆並を以調候御出候御出候御出候御出候  
筆交の達候御出候御出候御出候御出候  
書交の古候御出候御出候御出候御出候

\* 区々 〓 まちまち 筆並 〓 書き方

同廿八日

一 御用の儀有之御出候御出候御出候御出候  
小源治候御出候御出候御出候御出候  
御儀候御出候御出候御出候御出候  
益田三郎早衛門方へ別紙廻達候事  
候益田三郎早衛門方へ別紙廻達候事  
左の通り御沙汰書

来月六日英館於新堂、祭儀被仰候御出候  
付心懸次第被仰候御出候御出候御出候御出候  
罷出被相達候御出候御出候御出候御出候  
え拜見被相達候御出候御出候御出候御出候

一 出服勤の改銘の事  
右の通被仰付候事

申ノ七月

窪田四兵衛・大谷小源治



万延元申八月四日

御用の儀有之、御土居出候様申来候門二  
 付城の儀有之、御土居出候様申来候門二  
 日練已申渡候、御土居出候様申来候門二  
 調練日練已申渡候、御土居出候様申来候門二  
 尤差候付、追来々々、御土居出候様申来候門二  
 被半早中目、稽夫々々、御土居出候様申来候門二  
 御用時止候、御土居出候様申来候門二  
 廉御人早中目、稽夫々々、御土居出候様申来候門二  
 諸は尤差候付、追来々々、御土居出候様申来候門二  
 候と廉御人早中目、稽夫々々、御土居出候様申来候門二

小原勘右衛門・城一隼雄記之

同五日

御用の儀有之、御土居出候様申来候門二  
 西方調練已申渡候、御土居出候様申来候門二  
 諸古調練已申渡候、御土居出候様申来候門二  
 銃稽古調練已申渡候、御土居出候様申来候門二  
 陣調練已申渡候、御土居出候様申来候門二  
 候と廉御人早中目、稽夫々々、御土居出候様申来候門二

小原勘右衛門・城一隼雄記之

同十五日

今朝御用の儀有之、御土居出候様申来候門二  
 今付御用の儀有之、御土居出候様申来候門二  
 二下方小原の儀有之、御土居出候様申来候門二  
 丹廻達方候別紙の通被申渡候、職益速  
 及廻達方候別紙の通被申渡候、職益速

授書左の通り

此内諸稽古出候、御土居出候様申来候門二  
 条、右刻限重出候、御土居出候様申来候門二  
 候、右刻限重出候、御土居出候様申来候門二

高島流教練の儀は、御土居出候様申来候門二  
 可銘之とて、所作可相調候へは、心懸出席  
 申八月

小原勘右衛門・城一隼雄

同(万延元申八月)廿四日

今朝御用の儀有之、御土居出候様申来候門二  
 今付御用の儀有之、御土居出候様申来候門二  
 二朝御用の儀有之、御土居出候様申来候門二  
 門方御用の儀有之、御土居出候様申来候門二  
 廻方御用の儀有之、御土居出候様申来候門二

授書左の通り

御番勤又は召出等にて出萩の銘々、日限  
 高島流於教練場御用二候条、已来出萩前

方、右日限館中教練場にて御用人の内え  
 相達候様被仰付候事

小原勘右衛門・城一隼雄

万延元申十月六日

今朝御用の儀有之、御土居出候様申来候門二  
 今付御用の儀有之、御土居出候様申来候門二  
 二朝御用の儀有之、御土居出候様申来候門二  
 門方御用の儀有之、御土居出候様申来候門二  
 廻方御用の儀有之、御土居出候様申来候門二

大谷岩尾・増野弥一郎

\* 勸化 神仏の教えを勧めること  
 金品の寄付を勧めること

万延元申十二月九日

一只今御用の儀有之候様申来候二付大谷小

源治罷出候處、益田三郎左衛門方、別紙速の  
通半間中へ相達候様授有之候二付、早速の  
及廻達候事

(別紙なし)

同十六日同断

同十九日同断

月番 山崎十郎左衛門・大谷小源治

万延貳酉正月七日

御用の儀有之候條御土居罷出候様申來候方  
付吉賀直人候御出候御儀見於懸被仰候間、  
被立趣は、右當門の、見於懸被仰候間、  
手相致さ、上度出儀、見於懸被仰候間、  
尤勝手(談)の、他差可儀、見於懸被仰候間、  
苦候此段、御手出儀、見於懸被仰候間、  
右の早及廻達候事、御儀見於懸被仰候間、  
其段の早及廻達候事、御儀見於懸被仰候間、

同廿五日

御用の儀有之候條御土居罷出候様申來候方  
御儀見於懸被仰候間、御儀見於懸被仰候間、  
申渡候間、早及廻達候事、御儀見於懸被仰候間、

別紙左の通り

来月九日英館於新堂、祭儀被仰候間、  
付心懸次第、被仰候間、祭儀被仰候間、  
出仕度々、被仰候間、祭儀被仰候間、  
罷見被達候事、被仰候間、祭儀被仰候間、  
可相達候事、被仰候間、祭儀被仰候間、

一 出服織の改銘の事  
一 出服織の改銘の事  
一 出服織の改銘の事

右の通り被仰候事  
右の通り被仰候事  
右の通り被仰候事

侯賀次郎左衛門・吉賀直人